

認定特定非営利活動法人

日本雲南聯誼協会  
れんざ

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階

Tel:03-5206-5260 Fax:03-5206-5261

Email:yunnan@jyfa.org URL:<http://www.jyfa.org/>

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室

Tel:+86-871-3311468 Fax:+86-871-3320658

編集・発行人 初鹿野 恵蘭

印刷協力 (株)日経印刷 (株)技術評論社 デザイン ARTY STUDIO

Japan Yunnan  
Friendship Association

## 彩雲の南

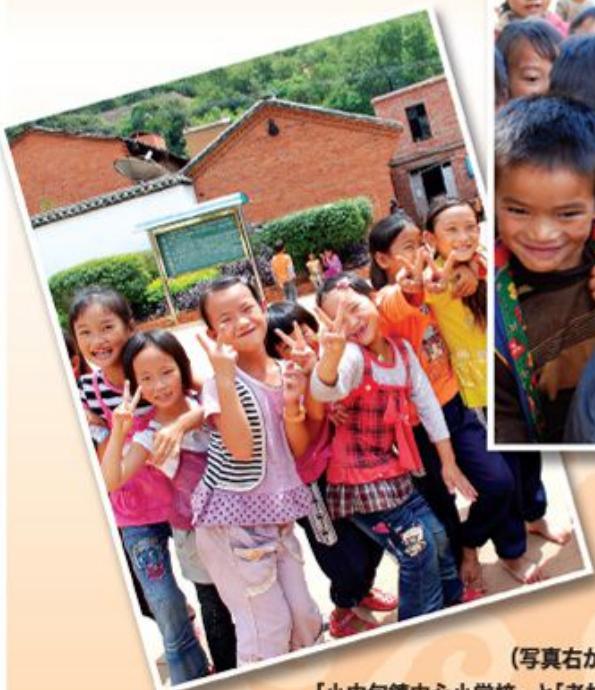
第35号

会報

発行日 2010年(平成22年)11月15日

底抜けに明るい笑顔ー必要な支援がここにある

学校が楽しい、ご飯もおいしい!



(写真右から) シャンギリラ最大規模を誇る

「小中甸鎮中心小学校」と「老村小学校」「白雲小学校」のはじける笑顔の子どもたち。

「学校が楽しい、ご飯もおいしい!」どこの学校でも同じことを言う子どもたちの表情は底抜けに明るい。

協会ボランティアの張南さんは(中央大学大学院在学中)、修士論文執筆の一環で協会支援校など3校を視察するため現地調査に入りました。9月9日には、当協会の会員でもある東海大学文学部の杉山文彦教授率いるボランティアの学生たちとシャンギリラの「小中甸鎮中心小学校」で合流、子どもたちと交流を深めました。

杉山教授からご寄稿いただくとともに、張南さんからは現地の様子をお聞きしました。



## 繩跳び60本・サッカーボール10個土産に



### 「小中甸鎮中心小学校」を視察、折り紙でも交流

—寄稿・杉山文彦／東海大学文学部教授



キラキラと輝く瞳が一齊にこちらを向き圧倒される。「こんな生き生きした瞳に見つめられるのは何年振りであろう、絶えで嬉しい」と思わず感嘆する(写真は高久秀雄氏撮影)

今回の旅行においてもっとも強い印象を与えた。我々が訪ねたのは5年3組、生徒数48人、教室に入るとキラキラと輝く瞳が一齊にこちらに向かって圧倒される。「私たちは日本から来ました。皆さん、日本を知っていますか。日本は東の海の中にある島国です……、日本の文化は、中国と似ているところもあるけれど、例えば黒板に書いてあるこの文を日本語に訳すと、この様になります、漢字の間に日本独特の文字が入り詰まっている……」私の下手な中国語は、話すにしたがいシロモドロになっていたが、子どもたちには食い入るようにこちらを見つめ続けていた。こんな生き生きとした瞳に見つめられるのは何年振りであろう、日本の学校では絶えて嬉しいのではないか。

下手な話を長々するよりはと思い、日本文化の紹介に切り替え、皆と一緒に折り紙をしたが、これがまた、たちまち生徒たちに取り囲まれてしまい、私も学生もみぐちやにされてしまった。それから校庭で繩跳びをしたりして、終業近くまで付き合った。大変楽しかったが、正直なところくたくたに疲れた。こんな子どもたち48名を毎日一人で指導する先生の苦労は大変なものであろう。

小中甸鎮中心小学校は小さな集落のはずれにあるが、生徒数は数百人になるのではと思われるくらい大規模である。これは最近の政府の方針で、各地に点在する学校を一箇所に集めて寄宿制にしたためで、中学校も少し離れたところに大きな校舎が建設中であった。生徒も教員もほとんどがチベット族ということであったが、教育は3年生まで民族語と漢語の併用、4年生からは漢語一本で行われるという。

お隣で私の漢語による話もなんとか聞いてもらえたわけだが、寄宿制の下での漢語教育ということになると、民族文化の継承はどうなるのであろうか、この点が少々気になった。

■ 杉山文彦 東海大学文学部アジア文明学科教授専攻。1945年生まれ。専門は中国近代史、近代日中関係史。

## 会員の平田氏、雲南師範大に語学留学協会が後押し、昆明「特命支部長」を拝命



左から「漢語総合」「漢語口語」「漢語閱讀」のテキスト。月曜から木曜日まで合計18時限履修しなければならず、すべての授業は中国語で行われる

## 白雲小学校-4年生で英語の授業、食事は外で 校長先生、トイレ改築強く願う費用 10万元



白雲小学校で元気な子どもたちに囲まれる現地調査に入った張さん

張南さんの現地視察は、学校がどのように使われているのか、勉強の内容、トイレなどの衛生面、宿舎、食事、子どもたちの様子、現地の要望など多様にわたります。

9月6-7の2日間、協会支援第11校目の「白雲小学校」を訪問しました。幼稚園から小学校5年生までの13歳の子どもたち337人が勉強し、6年生は鎮の中心小学校へ通学しています。

小学校4年生の授業を見学しましたが、英語の授業をしました。先生は1週間に亘り担当してきましたばかりの程です。標準語も完璧ではないのに英語の授業とは何か納得いかませんが、各県の教育局は地元の状況によって英語の授業をやるかどうか決める力があり、授業内容は郷や鎮の学校単位で判断できるようです。

どの子も「学校は楽しい、ご飯はおいしい!」と目を輝かせて言います。ただ、食堂はなく子どもたちは外で食事をとっています。トイレは外にあり、村人も使用していることもあります。汚さです。夜は暗くて危険です。通学で片道1時間以上かかる子どもは寮に入っていますが、決して清潔なものではありませんでした。ただ、金曜日には村人が子どもを迎えに来てくれ、16時ごろから皆で家に帰れるのを楽しみにしている子も多いです。

こうした現状を踏まえ校長先生は、「食堂がほしい。それと、トイレを何とか改築すること」を願っています。トイレは外に出なくていいように高い位置にある校舎からトイレまでの傾斜を構でつなげ、1階を子ども用に、2階を村人用にそれぞれ分けて使用したい考えです。問題はその資金で、10万元ほどかかるそうです。

この小学校は、建設に際して親がお金を作出している背景もあり、学校の運営に親が参加できる「家長学校」という制度が特徴です。また現在、「100万回の手洗いプロジェクト」を実施中で不衛生な環境からの意識改革が進められています。



座抜けに明るい笑顔は何物にもかえがたい  
(小中甸鎮中心小学校にて)

授業ではまだ英語は教えていませんでしたが、以前の小学校で習っている子どももいました。校長先生は「近いうちに英語の授業を開始する予定です」とした上で、今後「インターネットに取り組みたい」と抱負を語りました。休憩時間もを利用して子どもたちとバスケットやサッカーで交流しました。(詳細は杉山教授の寄稿を参照)



元気いっぱいの子どもたち、標準中国語も話せるようになりました(老村小学校にて)

## 小中甸鎮中心小—地域21校が合併

9月9日にはシャングリラにある「小中甸鎮中心小学校」を視察しました。専大国際サークルの鈴木君と木村君が同行。午後からは、先述の杉山教授とも合流しました。この小学校は協会支援校の吉能小や共卓橋愛小、阿央谷橋愛小など地域の小学校21校が合併して2006年に現在の中心小になりました。小学校1年生から6年生まで学ぶ完全小学校で全生徒887名、先生86名と州の最大規模を誇ります。

授業ではまだ英語は教えていませんでしたが、以前の小学校で習っている子どももいました。校長先生は「近いうちに英語の授業を開始する予定です」とした上で、今後「インターネットに取り組みたい」と抱負を語りました。休憩時間もを利用して子どもたちとバスケットやサッカーで交流しました。(詳細は杉山教授の寄稿を参照)

## 老村小—1.5時間徒步「宿舎ほしい」

9月16、17日の両日、当協会支援第21校目の「老村小学校」を視察しました。幼稚園から小学校3年生までの13歳と漢族の子どもが137名が学んでいます。今年5月に開校式を終えたばかりなだけに、トイレもさすがはきれいです。昼食は先生の奥さまが作ってくれますが、昼食代を払えない子どもも食材を持参して登校します。子どもたちは平均1.5時間徒步で通学しているので、学校側の要望としては「子どもたちの宿舎がほしい」とのことでした。先生の宿舎はありましたがあまりひどい状態でした。

昨日、初鹿野理事長に留学の話をしたとき、「是非、行きなさい。協会がバックアップしますから」と背中を押してくれた。その「甘い言葉」に乗って昆明にやってきたのが9月初旬。追うように「昆明支部長」の名刺が手元に届いた。「昆明に行ったら協会の手伝いもちゃんとしない」ということなのだろう、と有り難く頂いた。協会の後押ししがなければ踏み出す勇気はなかった私の語学留学。その顛末記を書いてみたい。

### ■ 昆明滞在顛末記 ①

9月6日(月)、午後10時過ぎに韓国の仁川空港を経由して昆明に着いた。見慣れたはずの景色がやけに新鮮に輝いて見える。多分、観光客としてではなく、雲南師範大学の中国語研修所(正式には「漢語教育学院」)に留学し、現地で生活をする一人旅ということで、少し緊張していたせいなのかもしれない。空港に昆明事務所の林さんが迎えにきていて、正直ホッとした。

翌日、昆明事務所の王さんに案内をしてもらい、雲南師範大学を訪問し早速、入学の手続きを行った。学費6500元(1元約13円)を会計課に納入。その領収書とともに写真2枚を再び学務課に提出し、別室で3冊の教科書を受け取り入学手続きは完了した。

ところが、最大の問題が残っていた。ビザの延長である。この時点で私はビザなしの観光入国で、最大15日間の滞在しか認められていない。入学は割と簡単に認めら

れたが、留学生ビザが認められなければ、19日には日本へ帰らなければならないことになり、6500元が無駄になってしまいます。

留学生ビザ申請の期限は13日。学務課からは、10日にパスポートにビザ延長申請書と「公安警察」の居住証明書を描いて提出しろとの指示だった。急速、住居を確定しなければならなかつた。

そのマンションは事務所から徒步5分ほどの場所にあった。部屋に入った途端に気に入った。小さなキッチンとシャワー、水洗トイレを備えた小奇麗な1ルームだった。前住者が冷蔵庫と洗濯機を残してくれていたので自炊生活が可能で、インターネットもすぐに使えると言う。但し、家賃は1ヶ月1600元、6ヶ月契約で全額前金払いが条件だった。1000元の予算を大幅に越えてしまったが、滞在中の生活費を節約することにして、前金を支払って契約した。

<続>



## 「100万回の手洗いプロジェクト」 JICAと初の現地視察、運営が軌道に



遠福中心小学校有早叶校長先生の聞き取り調査。左から山本要一郎(JICA広尾センター副所長)、小田達太郎(同北京事務所)、中野幸昌(同広尾センター市民参加協力調整員)、周迎(同北京事務所)



施設小学校シャワー室の壁には JICAと協会の名前が記されました



匹河中心小学校のトイレに貼ってあったのは、子どもたちが作った手洗いプロジェクトのポスター。衛生意識がさらに高まっていることが確認されました

※「100万回の手洗いプロジェクト」活動報告等の詳細は協会ホームページをご覧ください。

最終年度もいよいよ終わりに近づいてきたJICA草の根技術協力事業「100万回の手洗いプロジェクト」。今回の派遣活動では、9月14日～25日の12日間の日程で東京本部の担当職員が雲南入りし、プロジェクト対象校のモニタリングを行いました。

期間中、対象校5校のうち建水県の白雲小学校、怒江州福貢県の藤誼小学校、遠福中心小学校、匹河中心小学校の4校で視察調査を実施。昨年度の2回の衛生授業研修の成果、建設施設の現状と使用状況などについて報告がまとめられました。

このうち、福貢3校のモニタリングにはプロジェクトドナーであるJICAのスタッフが東京と北京から合流し、プロジェクト開始後初めてのJICAによる視察調査も行われました。

調査はいずれも学校側責任者のインタビューを中心に行われましたが、それによると、昆明で研修を受けた先生方の授業は生徒に好評で、全ての学校で子どもたちの手洗い行動などに良い変化が見られたということです。白雲小学校と藤誼小学校に建設した施設の利用も概ね順調で、運営が軌道に乗っている様子が伺えました。

12月のプロジェクト完了を前に、11月には薄田栄光プロジェクトマネージャーが最後のモニタリングのため現地に入ります。1年半のプロジェクト期間を通して、先生や子どもたちの意識はどのように変わったのでしょうか。年明けには、皆さんに詳しくご報告できることと思います。

### 25の小さな夢基金卒業生の声 第3回



「25の小さな夢基金」卒業生の今をお伝えするインタビュー。  
今回は回族の陳玲さんです。陳玲さんは今年6月に昆明女子中学を卒業し、9月から雲南大学の法学部に通っています。



Q1. 大学生になって2ヵ月が過ぎましたが、生活はどうですか?

大学の新キャンパスは昆明市東部の呈贡新市区にあります。まだ建設中の建物が多いため、キャンパス内はホコリだらけですが、毎日新しい変化が見られ、日々驚きと喜びを感じています。街全体が新しいキャンパスの成長を見守っている様です。授業は自由で出欠もありませんが、欠席する人は余りいません。私自身も、大好きな法をとても楽しく勉強しています。

学校の自習室や図書館は毎日人が一杯で、少し遅れると席がないくらいです。寮は4人部屋で、雲南の他に山東出身のルームメートもいますが、とても仲良くなっています。法学院の校舎はまだ建設中なので、今は寮から少し遠い校舎に通っています。交通も不便で、バスが一本しかありませんが、食事は美味しいんですよ。



回族の同級生と。一番左が陳玲さん

Q2. 今の春雷クラスの生徒に一言。

どんな困難でも耐えればいつかは過ぎていきます。努力しても成功を得られるとは限りませんが、努力しなければ何も得られません。頑張ってください!

Q3. 日本の皆様にメッセージをお願いします。

「春雷クラス」の学生へのご支援に対し、心から感謝申し上げます。私は頑張って勉強し、将来必ず社会の役に立つ人間になります。そして、皆様の愛を次世代へ伝えています。

◎ サポーターさんへのメッセージ: ご支援してくださり、本当にありがとうございました。  
いつも私を見守ってください!



### 「25の小さな夢基金」サポーター募集中!

貧困地域の少数民族女子を受入れるために設立された昆明女子中学校の春雷高校生クラス。「25の小さな夢基金」は、その春雷の女の子たちを1対1で応援する制度です。今年6月には基金2期生42名が無事卒業を迎えました。そして9月、基金第5期生となる新1年生50人が入学、現在皆さんのご支援をお待ちしています!



■ 詳しくはホームページをご覧ください。

[http://www.jyfa.org/2\\_education/edu\\_8.html](http://www.jyfa.org/2_education/edu_8.html)

## 「小さな壁新聞」日本版第1号、白雲小に届く 校長先生「とても上手」。来春には日本へ“返信”



日本から5000km余りの「旅」がこの日で終わりに。  
左から李国文校長、昆明事務所の林さん、  
平田特命支部長



「現代の連唐使船」で上海に到着した壁新聞は、帆船の乗組員の方から会員の三木秀隆氏の手により協会・雲南支部に届けられました

9月半ば、山梨県小菅小学校の生徒たちが書いてくれた「小さな壁新聞～日本版第1号～」を雲南省白雲小学校に届けました。

8月の酷暑の中、東京から運ばれた壁新聞日本版第1号は、ボランティアのみなさんの手によって奈良県の生駒山を徒步で越えて大阪港へ運ばれ、そこから大阪市が主催する「現代の連唐使船」に便乗して上海港へ到着。壁新聞は、船員から、上海に滞在中だった会員・三木秀隆さんの手にリレーされ、8月末に協会雲南支部に届けられました。そしてこの日、ようやく白雲小学校へ届けることができました。

白雲小学校がある建水県は、昆明市内から東南方向へバスで5時間ほど行った農村地帯です。建水の町で高速バスから路線バスに乗り換えてまた1時間ほど、バス停もない野中の路地でバスを降りると、校長先生が駐自動車で迎えに来てくれました。細い1本道を右に左にカーブして行くと、白雲小学校の立派な校門の前に到着。残念ながらすでに生徒たちは下校したようで、壁新聞を見る様子は確認できませんでしたが、校長先生は「とても上手ですね」と感心していました。

白雲小学校の生徒たちが書いてくれた壁新聞の「返信」は、12月初旬には東京本部に到着し、翻訳作業を経た後、来春には山梨県小菅小学校へ届けられ、またこれまでの壁新聞とともに何らかの形で会員の皆さんへも届けられる予定です。

日本からはるばる5000km余り、壁新聞は多くのボランティアの方々の善意に支えられて日本から中国へ、そして、中国から日本へ運ばれます。相互理解の架け橋として。(会員/昆明支部長: 平田栄一)

\* 語学留学で滞在期間中「特命支部長」に任命されています。



## 恒例のグローバル・フェスタ

-10月2日・3日 東京・日比谷公園



毎年多くの分野のNGO(政府団体)や政府・国際機関が参加する、国内最大級の国際協力イベント「グローバル・フェスタ」。今年7回目の出展となる協会が掲げたメッセージは「世界中の子ども達に国境のない平等な教育を!」。2015年までに世界の貧困を半減することを目標とする国連の「ミレニアム開発目標(MDGs)」の達成に向け、協会も一体となって協力いたしました。

両日とも天候に恵まれた秋空の下、少数民族の衣装を着用したスタッフや10数名のボランティアさんが、ブースを訪れる様々なお客様に対応。今年7月に認定NPO取得をきっかけに常勤活動の見直しを行い、今年度より物販を行わないこととなりましたが、その分、外国人の訪問者にも身振り手振りを交えながら、丁寧に応対している姿が見られました。

最終日の午後には、協会のボランティア第1号の矢野裕美子さんがご一家で来訪。初鹿野理事長と2000年当時の活動の話に花を咲かせていました。感想を見ると、「当時は『夢物語』として蕙蘭の話を聞いていましたが、自分の思ったことを実現できる人。蕙蘭は本当にすごい」と矢野さん。大きく述べた協会の姿に感動するかのように、目を細めていたのが印象的でした。

ブースをご訪問くださった方々やボランティアの皆さん、本当に有難うございました。また来年も、日比谷公園でお会いしましょう!

### 【ボランティア協力】(順不同・敬称略)

近藤一、瀧澤崇、佐々木英介、千々岩哲、高山大介、李勤、岩沙圭、久慈智弘、中村真菜、長谷部愛花、狩野千尋、林則幸、ツチダアツシ、鄭賢錦、領楠、蘿芸明、近藤森雄

## 協会大宮支部、3フェアに出展・盛況



さいたま市国際ふれあいフェアにて、寺内支部長(左)とボランティアの市川由美子さん

ま市浦和東口で開催された「さいたま市国際ふれあいフェア」に参加しました。初めて開催されたイベントで来場者はそれほど多くはなかったものの、みなさん協会活動や雲南についての説明を熱心に聞いてくださいました。

11日には「あげお国際フェア」が上尾文化センターで開催され、大宮支部は展示ブースに出演、PRルームでの映像上映も行いました。上尾市は国際交流を推進していることもあって、会場は人で溢れかえりました。ブースで行ったお子さんの民族衣装試着は大好評で、子どもたちも大喜び、PRルームでは、協会の10周年記念品でも人気でした。

23、24日の連休では、さいたま新都心や広場で開催された「埼玉国際フェア」に出演。ここでも民族衣装の試着は大人気で、地元ケーブルテレビ局も取材に訪れるほどの盛況ぶりでした。3つのイベントを通して、たくさんの人に協会のことを知って頂けたのではないかと思います。ご協力くださったボランティアの皆さん、どうもありがとうございました!

### 【ボランティア協力】(順不同・敬称略)

鳥羽清弘、川口邦夫、市川由美子、李峰、李俊、金子沙樹、高橋福子、服部恵美子、久慈智弘ほか



## 設立10周年記念ゴルフコンペが盛会



2年連続優勝の田中氏とトロフィーを手渡す理事長

8月28日(土)、山梨県大月のカントリークラブで恒例のチャリティーゴルフコンペが行われました。第6回目となる今回は、協会設立10周年と国税庁の認定取得を記念した大規模なコンペとなりました。

当日は絶好のゴルフ日和の中、18組73名の皆さんが華麗なショットを披露。チャリティーホールとなった18番ホールでは、グリーンに乗らなかった方だけではなく、乗せた方もご寄付をしてくださいました。また、今年は法人会員の縦半ホールディングス(株)様をはじめとするたくさんの協賛企業が豪華景品を提供してくださいましたことでもあって、コンペ後の懇親会も大いに盛り上がりがけました。

今回集まったご寄付で、昨年から支援している「25の小さな夢基金」の3名の女子高生に加え、新たに、大学に合格しているながら経済的事情で進学が危ぶまれていた3名の少数民族生徒に奨学生を交付することも決まりました。詳細はホームページなどで順次ご報告いたします。ご参加頂いた皆様、どうもありがとうございました!

### 【景品提供】

(株)技術評論社、サッポロホールディングス(株)、(株)大月カントリークラブ、縦半ホールディングス(株)、(株)京王プラザホテル、(合)村上製本所、他参加者の皆様

## 雲南を彩る25の星たち 連載第15回



鮮やかな衣装をまとうチワン族のお母さんたち  
(南勤小学校開校式にて)

チワン族(壯族)は中国の少数民族のうち最も人口の多い民族で、主に廣西チワン族自治区と雲南省の文山チワン族ミャオ族自治州に居住しています。独自の言語を持ちますが、今はほとんどの人が中国語を話します。チワン語には元々文字がありませんでしたが、中国政府はかつてローマ字のビンインを使つチワン文を制定し、書籍を出版したことがあります。

民族の歴史は長く、チワン族の祖先たちは数万年前から中国の南方で生活していたといいます。雲南省では古くから、文山地区的水辺で暮らしてきました。チワン族の住む地域は雲南の中でも比較的気候に恵まれております。今でもほぼ自給自足の生活を送っています。米、油、野菜、肉類を自給する他、漢方薬の「田七」の栽培は貴重な収入源となっています。

チワン族は歌が得意で、節目ごとに一問一答形式で歌う歌垣を行います。中でも、旧暦の3月3日に行われる三月歌会は最も盛大なもので、多い年には何万人もの人が参加し、若い男女には出会いを提供する場となります。また、民族の伝説的歌姫「劉三姐」は、世界的監督チャン・イモウの演出によるショーや映画にもなっており、中国全土に広く知られています。(雲南支部)

## イベント情報

11月10日(水)~25日(木)

「100万回の手洗いプロジェクト」第6回現地派遣活動  
場所:雲南省昆明市、紅河州、怒江州

11月20日(土)・21日(日)

第31回八王子いちょう祭り  
場所:八王子市甲州街道(国道20号)  
追分交差点~小仏関所跡  
主催:八王子いちょう祭り祭典委員会

12月8日(水)

日中「夢」サロン、理事長講演  
場所:五反田・東興ホテル  
主催:NPO法人セフティマネジメント協会

12月18日(土)

第10回チャリティー忘年会  
場所:恵比寿ピヤステーション  
主催:日本雲南聯誼協会

## 連載 鏡頭裏的世界 -レンズの中の世界-



### 「No.5」また来てね!

帰り際、校門まで見送ってくれた先生と子どもたち。目頭が熱くなりました。(張南 2010年9月7日紅河ハニ族イ族自治州建水県白雲小学校)

## ご協力ください

協会の活動は皆様のご厚意によって支えられております。ご入会・ボランティア登録のお申し込みは随時受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。また、カンパは下記口座にて承っております。1人でも多くの子どもたちに夢と希望を届けるためにも、皆様の暖かいご支援・ご協力を心よりお待ち致しております。

トクテイヒエイリカツドウホウジンニッポンウンナンレンギキョウカイ  
**特定非営利活動法人日本雲南聯誼協会**

三菱東京UFJ銀行 目黒駅前支店 普通口座 1300380  
ゆうちょ銀行 00100-8-610935

## 編集後記

酷暑から一転、秋季を忘れ冬本番なみの寒さに突入した日本列島ですが、協会事務局は「協会設立10周年記念誌」の編集作業に上や下への大わらわです。A4判変型128ページにも及ぶ内容は、協会設立前から14年間の軌跡を余すことなく収録、貴重な史料となることを確信し作業に励んでおります。協会のチャリティー忘年会の12月18日(土)、文字通り大安の日にお披露目です、お楽しみに!